

論文「羅生門の構造」

目的

全員が文字として書かれていないことも読み取れるようになる。

目標

全員が以下の課題を完成させ、「羅生門の構造」を説明できるようになる。

課題

次のフォーマット（ナンバリングとラベリングを使った四段落の文章）をもとに「羅生門の構造」に関する論文をノートに書く。

いつものようにノートの枠外に日付・年組番名前を記す。
 （ ）～に当てはまる表現を記入する。
 ≪ / ≫の中はどちらかを選んで記入する。

フォーマット

() や ≪ ≫ のカッコ 자체は書かない。

「羅生門」の主人公「下人」は物語の中で子供から大人へと成長した。その過程を三点説明する。一点目は「にきび」、二点目は「勇気」、三点目は「逆転」である。

一点目の「にきび」について説明する。下人のほおにはにきびがある。冒頭部、それをいじりながら（ ）という迷いがあった。「にきび」は幼いことの表れである。また、迷っているということは、考えがまとまつていないと（ ）下人の状態を表している。

二点目の「勇気」について説明する。下人は（ ）ために盗人になる勇気がなかつた。それは（ ）が盜人になる勇気を邪魔していたのである。（ ）ことと（ ）では、（ ）が勝つてしまい、（ ）

プリント 13 の D に書いたことをアレンジする。（ ）大人にまだなりきれな

い下人の幼さを表している。

三点目の「逆転」について説明する。《77頁 14行目「しかし、これを聞いているうちに、下人の心には、ある勇気が生まれてきた。」／78頁 6行目「そうして、一足前へ出ると、不意に右の手をにきびから離して、老婆の襟髪をつかみながら、かみ付くようにこう言つた。」》の部分で下人は大人になつたことがわかる。なぜその時点なのかというと、（ ）そちらを選んだ理由=選ばなかつた方は間違いだという理由を記す。（ ）。そうして下人は（ ）プリント 13 の「次の表現」枠内の A に書くこと。（ ）子供から、（ ）大人へと成長したのである。